
最後の夜

松竹梅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後の夜

【Nコード】

N6394A

【作者名】

松竹梅

【あらすじ】

ある大学生の小さな恋。田中たけしを変えた。一人の女性と二人の行方は…。

涙が止まらなかった。空には星が輝いていたはずなのに。俺には見えなかった。あの：最後の夜…。

ガタンゴトンガタンゴトン。

いつもと変わらない電車をいつもと変わらない時間にいつもと変わらない顔のやつらと一緒にいつもと変わらない場所へ行く。4月に大学に入学したばかりの俺田中たけしは大学に入って数ヵ月が過ぎたがそれほど友達も出来ず、サークルにも入っていない。バイトはそこそこ。まあそこらの大学生の内の一人だ。思えば18年間のらりくらりと過ごしてきた。彼女も出来たことは無いし、部活に情熱を沸かしたこともない。唯一得意な勉強でなんとか大学に入れたがこれから将来に向けて何をしていくのか考えているわけでもない。とにかくボンヤリ生きてきた俺だった。そう：彼女と出会うまでは…。

俺と彼女：

「玉田唯」

は同じ学部と同じ学科。初めてちゃんと話をしたのは一年生の夏だった。俺は友達は少ない方だが彼女とは仲良く話す方だった。日に日に唯と話す時間が多くなり、知らず知らず俺たちは仲良くなっていった。唯は友達が多くて笑顔がかわいくてとても面倒見の良い子だった。でも時々見せる疲れた顔が俺は気になっていた。

唯のおかげで俺も少しずつ友達が増えてきてある日夜から唯の家で友達数人で遊んでいた。唯は途中で寝てしまい俺もいつのまにか唯の家でウトウトしていた。友達は次々帰っていき唯の家には俺と唯だけが残された。俺は帰ろうかと思ひ唯を起こそうとして唯を軽くゆすった。目と目が合い気付くと俺は唯にキスしていた。一瞬自分

でも何をしたのかわからなかった。俺はいつのまにか唯にひかれて唯のことを特別な目で見えるようになっていたのだ。その日の俺の無器用過ぎる告白を唯はやさしく受け止めてくれた。

こうして俺たちは付き合うようになった。明るくて人気者の唯と暗くて一人の時の多い俺。あまりに対称的な俺たちの少しおかしな生活が始まった。

付き合い初めて数カ月経ったが俺たちはとゆうと：毎日のようにケンカをしていた。

「なんでそんなに冷たいの！」

「冷たくした覚えは無いけど？」

「もういい！」

こんな感じで唯はいつも俺の冷たさに愛想をつかし少したって

「ごめんなさい…」

と謝ってきた。俺たちは別れそうで別れない。よくいそうでいないようなそんなカップルだった。もっとも俺は唯にいわゆるゾッコンだった。それが二人を繋ぎ止めていたのかもしれない。いろんなことがあった…。二人で行った旅行…、一緒に作った料理…、たくさんのキスとたくさんのセックス…、一緒に散歩した川沿いの道…、破った約束守れた約束…。

幸せな時間とはあつとゆう間なのだろうか。長かったのか短かったのか、出会いがあれば別れがあるのか。別れは突然唯から切り出された…。

「もう…疲れちゃった」

「疲れた？」

「もう無理みたい」

「もう好きじゃない？」

「…うん」

「そっか…」

「バイバイ」

唯は行ってしまった。俺を残して行ってしまった。

俺は諦められなくて、ある日唯を呼んだ。一緒にご飯を食べた。いろんなことを思い出した。楽しかったこと、悲しかったこと。幸せだった。大切にしたいと思った。

「送っていくよ」

「ありがとう」

俺は唯を自転車の後ろに乗せて唯の家まで送りに行った。本当は20分ほどで着く道をゆっくりゆっくり自転車をこいだ。もっと一緒にいたかったから、ずっと一緒にいたかったから。このまま時が止まれば良いと願った。だが…無情にも時間は過ぎて自転車はいつのまにか唯の家に。

「バイバイ」

振り向かなかった…。振り向いたら帰れない気がしたから…。俺は帰り道泣きながら自転車をこいだ。強くならなきゃ。強くならなきゃ。唯に負けないくらい。

それが二人の最後の夜二度と忘れない…最後の夜。

(後書き)

短いですがいろんなメッセージが入っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6394a/>

最後の夜

2010年12月10日21時33分発行